

議論尽くして

私たちが試されている

作家 あさのあつこさん



「国民の理解が進んでいる状況ではない」。安倍首相は15日の衆院特別委員会ですう言いましたね。それなのに採決を強行し、可決してしまっただ。民主主義を

揺るがしかねない。

法律を作り、国会を通す政治家の人たちは戦場には行かない。戦地へ送り出されるのは、子どもたちです。安倍さんの言動を見て

いると、平和的な解決の道を本当に探ろうとしているのか疑問。武力ではなく、「外交」でコントロールしていく姿勢を示してほしい。86歳になる私の母は終戦

安全保障関連法案の審議は参院へ移る。参院の役割と今後の論点を、識者に聞いた。

野党は何回も質問を

作家 室井佑月さん



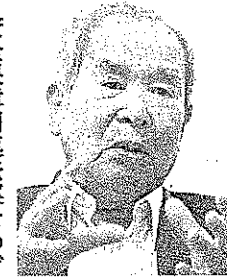
NHKが中継しなかった15日の特別委員会、私の周りではネットで見ている人が多かった。少し前に「国に逆らうようなことを言っちゃいけない」と言ってい

た近所のおばさんは最近、安保法案のことを話題にするようになりました。

安倍首相たちが質問に答えず、はぐらかすような答弁を繰り返した衆議院での議論を見て、何かやばいと感じる国民が増えてきたと思う。安保法案を他人事と考えていた人が「自分のこと」と考えられるようにになり、「それは違う」と言い

参院は党議拘束外せ

元自民参院議員会長 村上正邦さん



安全保障関連法案をめぐる参院の姿勢がともも気になる。参院で60日間採決されなければ衆院で再議決できる「60日ルール」を念頭に置いた大幅な会期延長を許したことは、私の議員時代なら考えられない暴挙だ。反対する声が自民党内から出てこない状況に驚き、憤りを禁じ得ない。

のとき、「大人はみんなうそつき。金輪際、信用しない」と思ったそうです。安保法案が成立してしまったら、当時のように子どもたちが大人を信頼しなくなる、心がすさんでいくような気がしてなりません。主権者は私たち。参院の審議はこれからです。「反対しても同じ」と思わず、これから議論がどう進むのか冷静に見極める。子どもたちに残していい法律なのか、体を張って阻止しないといけないのか。私たちが試されていると思います。

(聞き手・花房晋子)

やすくなってきたいるんじゃないかな。明らかに潮目が変わっている。

首相は参院で議決できなくとも衆院で再議決できる仕組みで、法案を成立させようとしているんですよ。でも、あきらめる必要はない。野党は参院で、長い時間をかけて議論してほしい。再びはぐらかすような答弁を続けたら、きちんと答えるまで何回も質問しなきゃいけない。参院の意味？ 安保法案に対する政権の姿勢を知ることが出来る公開の場なんじゃないかな。(聞き手・増谷文生)

7/17 朝

長い国会対策の経験から

すれば、国家の根幹である安保政策を大転換するのには、1国会で成立させるのは無理な話。PKO協力は3国会をまたいだ。話し合いを重ね、国民の十分な理解を得る努力をするのは民主主義の基本だ。

そもそも憲法は正々堂々と正面から論じ、改正すべきだ。一内閣が解釈改憲を無限に拡大していくなどあってはならない。自分がやるべきだと思ふことに、リーダーは臆病でなければいけない。

今の自民党は過去とは別物だ。解釈改憲により、党

是である自主憲法の制定は遠のいた。先輩たちが継承してきたものを簡単に変える。プレーキ役が首相の周囲にいないことが大きく、心地よいことだけを聞く。

参院自民党はかつて、衆院側に敵しく物を申す党内野党だった。そのよき伝統が引き継がれていないように見えることは我々の責任でもあるが、審議が始まって多様な意見が出ないなら、「二院制は不要」と自ら認めるようなものだ。

60日ルールで法案が成立する結果は変わらないとしても、参院では党議拘束を外して法案を採決することが、「良識の府」としてのありべき姿ではないか。